町民の安心・安全を守る拠点基地

新東分遣所が運用開始

4月1日から運用を開始した新東分遣所

役場隣接の町有地に移転新築した阿久根地区消防組合阿久根消防署東分遣所が4月1日から運用を開始しました。

旧東分遣所は昭和49年に建築され、本町の火災、救急、災害対応活動などを担ってきましたが、築45年が経過した施設は老朽化など多くの課題に直面していました。平成24年3月、長島町町有施設のあり方検討委員会から、東分遣所の新築の必要性について答申があり、新施設建設へ向けて始動。新東分遣所の完成に至りました。

同施設は、総事業費が約5億3600万円、鉄筋コンクリート造りの3階建てで、延べ床面積が約1376平方㍍になります。市町村合併に伴う職員の増により、旧東分遣所で不足していた会議室や事務室を充実させています。1階は署員の事務室や消防車庫、出動準備室、各資器材倉庫などを備え、2階には災害対策室やトレーニング室、女性消防団の待機室などが設けられています。3階に設置された発電機室は、停電時でも分遣所および災害対策室の機能を失わないように72時間以上の運用ができるよう設計されています。

↑旧東分遣所と比べ、面積と設備が拡充された事務室（写真右）と会議室（同左）

↑消防車庫で行われた開所式の様子

4月26日、同所で開所式が行われ、川添健町長をはじめ、消防関係者ら約60人が出席しました。川添町長は「新東分遣所を十分に活用して町民の安心・安全を守る拠点となることを期待したい」とあいさつしました。

5月31日の鹿児島県消防技術指導会に出場する署員らの引き揚げ救助訓練も披露され、出席者から拍手が送られました。

平成31年度長島町消防団入退団式

受け継がれる地域防災への思い

4月14日、町総合交流ターミナル施設で長島町消防団の平成31年度入退団式が行われました。

今回は73人が退団し、67人が入団。総員295人体制で新たなスタートを切りました。

式典では、川添町長が諏訪団長へ町消防団長の辞令を交付した後、長期にわたり消防団活動に取り組んだ退団者に感謝状を贈呈しました。

新入団員を代表して川端洋斗団員（浦底分団）が「忠実に消防の義務を遂行します」と力強く宣誓し、諏訪団長が新体制の幹部に辞令を交付。川添町長は団員へ向けて「長島町消防団は100年を超える歴史を誇り、昨年の全国消防操法大会で優秀な成績を収めたことで全国でも注目を集める組織となりました。地域一体となって安心・安全の確保をお願いします」とあいさつしました。

退団者を代表して竹山司郎元分団長（中央分団）が「ともに命を懸けて活動してきた団員と支えてくれた地域の皆さん、家族に感謝します」とお礼の言葉を述べました。

そのほか、在団する団員らの訓練披露が行われ、関係者から温かい拍手が送られました。

↑整列する新入団員

→退団者を代表してあいさつする竹山元中央分団長